

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

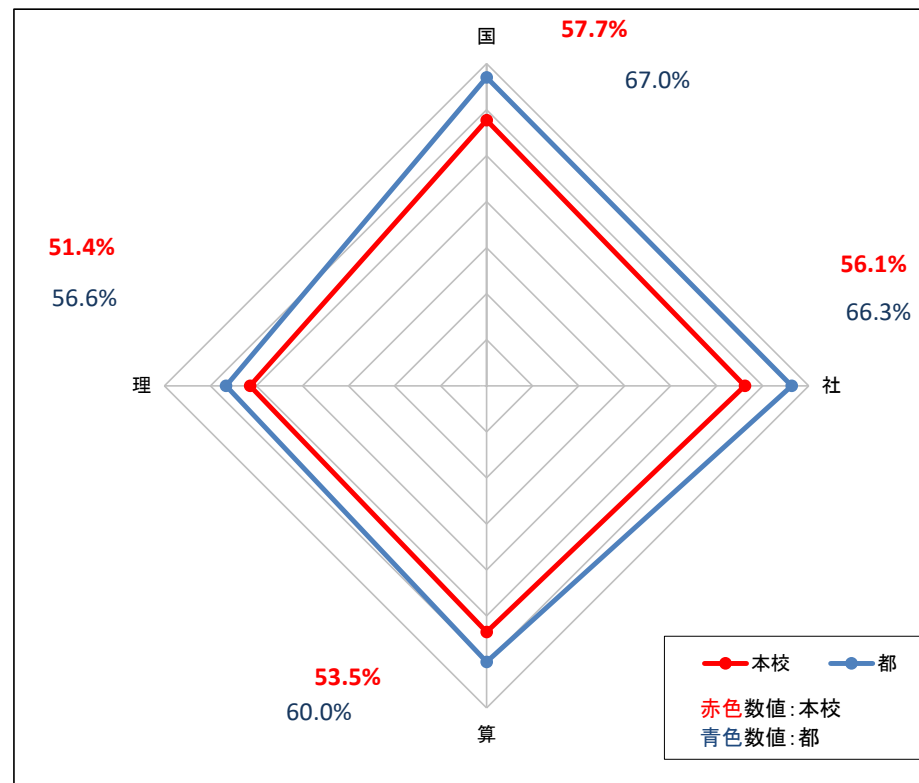
篠崎第二小学校

国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	65.9%	70.9%	67.1%	65.9%	67.0%
本校	53.8%	61.4%	56.5%	59.5%	57.7%
都との差	-12.1	-9.5	-10.6	-10.4	-9.3

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解	
東京都	63.1%	66.5%	69.8%	66.3%
本校	53.6%	56.1%	59.1%	56.1%
都との差	-9.5	-10.4	-10.7	-10.2

算数	教科の観点			教科の合計
	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
本校	35.2%	61.2%	62.5%	53.5%
都との差	-11.2	-4.0	-5.3	-6.5

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	
東京都	52.9%	66.4%	55.0%	56.6%
本校	48.1%	67.6%	46.3%	51.4%
都との差	-4.8	1.2	-8.7	-5.2



《都との比較にみる本校の状況》

各教科、各項目において全国平均を下回っている。どの教科においても極端に数値が低い部分は少ないため、各項目の傾向は都平均と近いことがわかる。

国語においては、特に話す・聞く能力が都平均を下回っている。全項目の中で最も大きな差が見られる分野である。

社会科においても、各項目において10%程度下回っている。特に社会的な事象についての知識・理解が大きく下回っている。

算数においては、数学的な考え方においては11.2%下回るものの、数量や図形についての技能においては4%下回るにとどまっており、技能や数的処理の面では比較的都平均に近い水準にあるといえる。

理科においては、観察・実験の技能は都平均を1.2%上回っており、授業において行った観察・実験の仕方や器具の使い方等については身に付いているといえる。

《授業改善のポイント》

国語においては、話す・聞く能力に課題が見られるため、実際にインタビューをしたり、聞いた話をもとに適切な質問をしたりするという活動を行う必要がある。児童同士での話し合い活動を積極的に取り入れていく。

社会科においては社会的な事象についての知識・理解に課題が見られるため、資料をもとにどのようなことが分かるのかについて考えたり話し合ったりした内容を表現する場面を多く設け、学んだことが身に付くようにする。

算数においては数学的な考え方に関する課題があるため、問題の解き方を考えたり、説明したりする活動を多く取り入れ、まずは自分で答えの導き方を考えることを多く行うようにする。

理科においては自然事象についての知識・理解に課題が見られるため、実験の結果を正しく整理し、そこから何が得られるのかについて話し合うことで、学んだことを確実に理解できるようにする。

どの教科においても、教師主導ではなく、児童自身が問題を見出し、課題を解決していけるような授業展開が求められる。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習では、授業内容の復習や反復練習を基本とし、出来るだけ保護者に確認してもらおうよう、協力を呼びかける。

家庭学習キャンペーンにおいて算数の復習を定期的に行っている。引き続き引き継ぎ、各家庭においてもできるだけそれぞれの児童の苦手な分野を把握してもらえよう声をかける。

朝読書での読み聞かせなどにより読書への関心が高まっているので、今後も継続していけるよう体制を確立する。